

U001-07

会場:304

時間:5月22日 11:15-11:30

水質改善と水環境保全の挑戦と問題 ウジャニ湖流域、インド Challenge and Obstacles in Water Quality Improvement and Water Environment Conservation - Ujjani Lake Basin, India

木村 直子^{1*}, サンディーブ ジョシ²

Naoko Kimura^{1*}, Sandeep Joshi²

¹ 京都大学防災研究所, ² Shrishti Eco-Research Institute (SERI)

¹ DPRI - Kyoto University, ² Shrishti Eco-Research Institute (SERI)

プネ市は、インド西部の工業都市である。大都市ムンバイからわずか 100km のところに位置しており、現在は IT 関連産業の発展が目覚ましく、欧米や日本からも多くの IT 関連企業が参入している。このプネ市の北東約 100km にウジャニ湖（貯水池）がある。プネ市と市郊外はその流域に属しており、ウジャニ湖の流入河川であるムラ川やムラ・ムタ川が流れている。ウジャニ湖はその水質の悪化が問題になっており、場所によっては近くに行くだけで悪臭が漂い、汚濁水質に生息する生物などが多くみられる。プネ市の規模が大きくなるにつれ、その流域人口の増加と産業の発展に比例してムラ川、ムラ・ムタ川への排水量も増えている。こうした状況を受け、河川と湖の水質改善に向けた様々な取り組みが進められている。プネ市政府は下水道施設の整備計画を行い、現地の専門家や NGO は、スラム街における水質向上プロジェクト、植樹、女性グループによるペーパーリサイクル啓発活動、住民主導の環境保全啓発運動を実施している。これらの活動が進行する過程において、市政府と住民との合意形成に向けた議論展開の難しさが見られると同時にそのような活動に参加する住民たちの水環境保全に対する意識は確実に向上している。特に女性の自分たちの活動に対する自尊心や内発的発展は顕著であり、彼女らの周辺男性が環境保全に関心を高める一助を担いつつある。農村部では女性がそうした活動に参加することがまだ難しい状況ではあるが、環境保全と文化への自尊心は、そうした運動を通じ、確実に世代を超えて伝承されている。本稿は、ウジャニ湖流域における水環境保全活動が、水質改善と住民の意識啓発に寄与する範囲を明らかにするとともに、今後の活動発展に向けた提言を試みるものである。

キーワード: 流域管理, 水質改善, 参加, ジェンダー

Keywords: basin management, water quality improvement, participation, gender